

【報道関係各位】

2019年4月25日
一般財団法人 日本気象協会

2019年桜開花予想(第10回) 北の大地に桜前線到達！ 10連休は続々とサクラサク

一般財団法人 日本気象協会(本社:東京都豊島区、会長:石川 裕己、以下「日本気象協会」)は、日本全国92地点の桜(標本木[ソメイヨシノほか]53地点、自治体・公園など36地点、および日本三大桜3地点)の開花予想日(第10回)を2019年4月25日(木)に発表します。なお、今回の発表をもちまして、本形式での2019年シーズンの開花予想は最終回となります。

- ◆22日に松前町、24日に札幌と函館で開花！ 桜前線は北海道に到達
- ◆10連休中は道南や道央を中心に次々と開花・満開に
- ◆東北部は花吹雪 連休中に見ごろを迎えるところも

■2019年桜開花予想前線図



■開花と満開の傾向

今年の桜の開花前線は、3月20日に長崎市からスタートし、本州を順調に北上しました。先週は季節先取りの暖かさに誘われて、東北部で次々と桜が咲きました。桜前線は10連休前に急ぎ足で津軽海峡を渡り、22日に松前町で、24日に札幌市と函館市で開花しました。桜前線は北海道を北上しています。

連休はじめの今週末は強い寒の戻りが予想され、北海道では咲き始めた桜に雪の降るところもあるでしょう。北海道の開花・満開日は前回の予想より2~3日遅くなり、帯広市では5月2日に、旭川市では3日に開花する見込みです。連休中は道南や道央を中心に見ごろを迎えるでしょう。連休明けの5月中旬には、道北の稚内市や道東の釧路市、根室市で次々と開花・満開となり、桜前線は終着を迎えそうです。



■日本気象協会 長期予報(気温)

気温	10 連休中	10 連休明け～5月中旬
北海道	平年並か低い	ほぼ平年並

■2019年 桜の予想開花日・満開日(主な地点)

	地点	予想開花日	平年開花日	昨年開花日 (2018年)	予想満開日	平年満開日	昨年満開日 (2018年)
福岡県	福岡市	(3月21日)	3月23日	3月19日	(3月29日)	4月1日	3月27日
香川県	高松市	(3月26日)	3月28日	3月24日	(4月4日)	4月5日	3月29日
広島県	広島市	(3月22日)	3月27日	3月22日	(4月3日)	4月4日	3月28日
大阪府	大阪市	(3月27日)	3月28日	3月20日	(4月4日)	4月5日	3月26日
愛知県	名古屋市	(3月22日)	3月26日	3月19日	(4月4日)	4月3日	3月27日
東京都	千代田区	(3月21日)	3月26日	3月17日	(3月27日)	4月3日	3月24日
長野県	長野市	(4月13日)	4月13日	4月2日	(4月18日)	4月17日	4月6日
富山県	富山市	(3月28日)	4月5日	3月27日	(4月5日)	4月10日	3月30日
新潟県	新潟市	(4月5日)	4月9日	4月3日	(4月12日)	4月14日	4月5日
宮城県	仙台市	(4月5日)	4月11日	3月30日	(4月10日)	4月16日	4月4日
北海道	札幌市	(4月24日)	5月3日	4月26日	4月29日	5月7日	4月29日

※予想開花日、予想満開日の()はすでに開花や満開になった地点です。

全 92 地点の桜(標本木[ソメイヨシノほか]53 地点、自治体・公園など 36 地点、日本三大桜 3 地点)の予想開花日・予想満開日は、日本気象協会が運営する天気予報専門メディア『tenki.jp(てんきじゃーぴー)』桜情報ページ(<https://tenki.jp/sakura/expectation/>)にて公開しています。

また、開花・満開の最新状況は同ページにて1日2回更新予定です。

■各地の気象予報士コメント

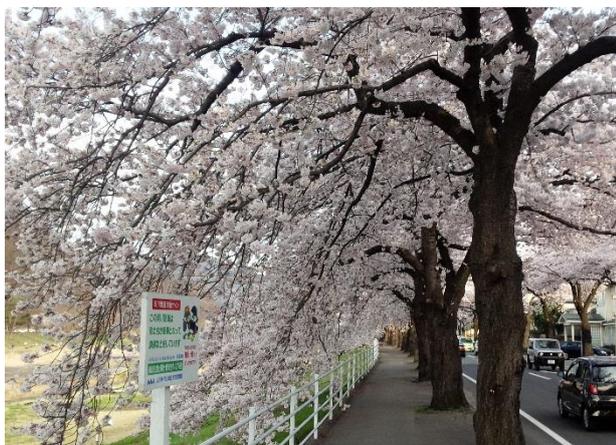
	日本気象協会 東北支社(佐藤 理恵子) 4月5日に福島で桜が開花し桜前線は約2週間で青森に到達しました。今週満開を迎えた青森の桜は花吹雪や花筏で平成の最後を飾るでしょう。また、東北北部を中心にこれから見ごろを迎えるところもあり、来週も満開の桜のもとでお花見が楽しめるところがあるでしょう。
	日本気象協会 北海道支社(田嶋 恵) 10連休中は道南や道央の各地で満開の桜が楽しめそうです。4月22日に道南の松前に上陸した桜の開花前線は、平年より3日前後早く北上し、5月中旬には道北や道東にも到達するでしょう。長崎からスタートした桜前線は、およそ2カ月かけて長い旅を終えることになりそうです。

日本全国 92 地点の桜(ソメイヨシノほか)の開花・満開予想以外にも、「日本三大桜」と呼ばれている福島県の「三春滝桜」(みはるたきざくら:ベニシダレザクラ)、山梨県の「山高神代桜」(やまたかじんたいざくら:エドヒガンザクラ)、岐阜県の「根尾谷 淡墨桜」(ねおだに うすずみざくら:エドヒガンザクラ)の開花予想を『tenki.jp(てんきじゃーぴー)』桜情報ページ(<https://tenki.jp/sakura/expectation/>)にて公開しています。

【言葉の説明】

平年:1981～2010年の平均値

かなり早い	:平年より7日以上早い
早い	:平年より3日から6日早い
平年並	:平年との差が2日以内
遅い	:平年より3日から6日遅い
かなり遅い	:平年より7日以上遅い



山形市（馬見ヶ崎さくらライン） 桜の様子
(4月20日撮影)



札幌管区气象台 開花の様子
(4月24日撮影)

以上



参考資料

桜開花予想に関するよくあるご質問

Q1: 桜開花予想の報道発表のスケジュールは？

A1: 第1回は2月7日(木)、第2回は2月21日(木)、第3回以降は3月から4月下旬まで毎週木曜日(3月20日のみ水曜日)に発表を予定しています。2月中は予想開花日のみを発表し、3月以降は予想開花日と予想満開日を発表します。

Q2: 開花日・満開日の基準は？

A2: 気象庁の観測基準と同じです。開花日は標本木で5~6輪以上の花が咲いた状態となった最初の日、満開日は標本木で80%以上のつぼみが開いた状態となった最初の日です。

Q3: 予想する地点数は？

A3: 2月中は51地点、3月以降は全国で92地点の予想を発表します。予想地点92地点は、各地気象台が観測する標本木53地点と自治体・公園などの協力機関から観測データを得られる36地点、および日本三大桜の3地点となります。

Q4: 日本気象協会の桜開花予想の手法・特徴は？

A4: 花芽(はなめ)の生育過程に大きな影響を与える「秋以降の気温経過」に重点を置いた、独自の予測式を用いて開花予想を行っています。各地気象台の標本木や公園などの協力機関による正確な観測データを重視した、気象学的根拠に基づいた予想を出しているのが特徴です。

2007年から桜の開花予想を実施しており、今年で13年目の取り組みです。

Q5: 開花予想に使うデータは？

A5: 以下データを使用しています。

- ① 前年秋から予想作業日前までの気温観測値
- ② 予想作業日から開花時期までの気温予測値(日本気象協会ポイント予報および長期予報)

桜の開花時期には、前年の秋から春にかけての気温が大きく影響します。桜の花芽は前年の夏に形成され、その後、休眠に入ります。冬になって一定期間の低温にさらされると、花芽は休眠から覚めます(休眠打破)。休眠から覚めた後は、気温の上昇とともに生長し開花しますが、気温が高いほど花芽の生長が早く進み、開花が早まると考えられています。

Q6: 日本三大桜とは？

A6: 福島県三春町の「三春滝桜」(ベニシダレザクラ)、山梨県北杜市の「山高神代桜」(エドヒガンザクラ)、岐阜県本巣市の「根尾谷 淡墨桜」(エドヒガンザクラ)を指します。いずれの桜も、大正11年(1922年)に国の天然記念物に指定されています。樹齢が1000年以上で、幹回りが9メートル以上あります。

日本三大桜の開花予想作成にあたり、地元自治体やお寺の住職の方々のご同意を得て、過去の長年にわたる開花日や満開日の観測データを使わせていただき、それぞれの桜の開花日や満開日に関する独自の予測式を作成しました。開花時期には日本気象協会の気象予測を用い、地元自治体やお寺の住職の方々のご協力も得ながら、精度の良い開花予測を提供します。